

平成18年度決算の状況

(データは、平成18年度地方財政状況調査によるもの)

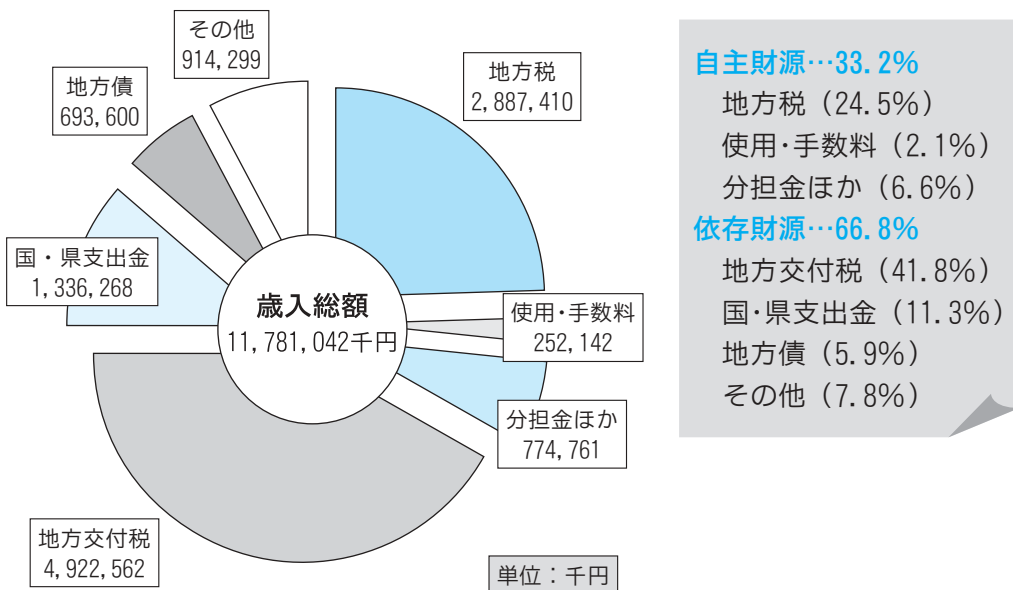
神埼市の財政事情

○主な財政指標

| 財政指標 | 数値 | 県内平均 | 用語の説明 |
|---------|-------|-------|---|
| 経常収支比率 | 95.1% | 92.2% | 毎年経常的に入ってくる財源のうち、経常的な経費に費やされた割合を表します。この指標が高いほど自由に使える財源が乏しく、財政構造が硬直化していると言えます。 |
| 公債費比率 | 15.4% | 13.7% | 標準的な財政規模に対する借金返済額がどの程度あったかを測るものです。この比率が高いほど財政構造の弾力性を圧迫していると言えます。 |
| 実質公債費比率 | 22.1% | 14.4% | 公債費比率に、一部事務組合等への負担金や繰出金など市が負担することを約束している全ての経費を含めた比率です。18%以上の団体は借入に際し許可が必要となります。 |

神埼市は毎年の経常的な収入に対し、公債費、負担金、繰出金などの経常的に支払う額の割合が高く、財政構造の弾力性が乏しい、大変厳しい状況にあります。平成19年3月策定の行財政改革大綱に沿って行財政改革を着実に進めていきます。

○一般会計歳入の状況



自主財源…33.2%

地方税 (24.5%)
使用・手数料 (2.1%)
分担金ほか (6.6%)

依存財源…66.8%

地方交付税 (41.8%)
国・県支出金 (11.3%)
地方債 (5.9%)
その他 (7.8%)

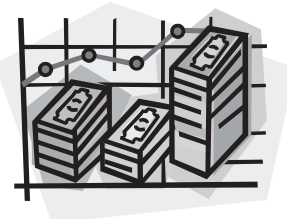
歳入総額117億8,104万2千円のうち地方税、使用・手数料などの自主財源（市が自主的に収入しうる財源）が39億1,431万3千円で歳入全体の33.2%と低い状況にあります。

市では、市民の皆さんに納めていただいた税金がどのように使われているか、市の財政がどのような状況にあるのかをお知らせするために毎年、財政事情を公表しています。
今回は、平成18年度の決算と平成19年度上半期（4～9月）の予算の状況をお知らせします。

○基金（貯金）の状況

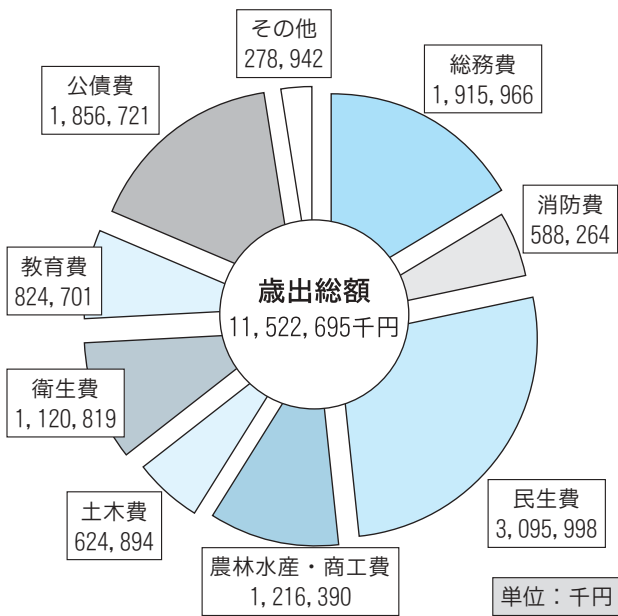
平成18年度末の基金残高は約16億円です。住民一人当たり約4万8千円となります。
(単位：千円)

| | | |
|--------|-------------------------|-----------|
| 財政調整基金 | 長期的な財源調整を行うための基金 | 513,685 |
| 減債基金 | 地方債償還に必要な財源を確保するための基金 | 362,631 |
| 特定目的基金 | 地域福祉などある特定の目的のために積立てる基金 | 610,174 |
| その他の基金 | 定額運用基金および特別会計の基金 | 147,478 |
| 合計 | | 1,633,968 |



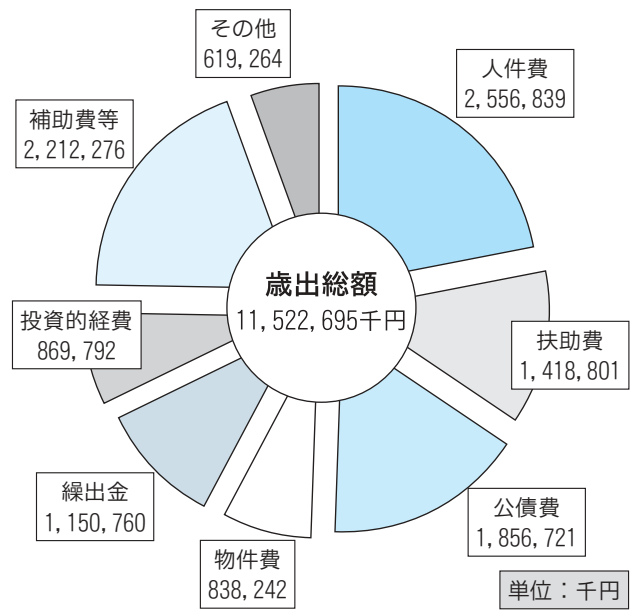
○一般会計歳出の状況

【目的別】



総務費（16.6%）…庁舎管理や交通安全のための経費
 消防費（5.1%）…火災や災害対策のための経費
 民生費（26.9%）…子育てや高齢者のための経費
 農林水産・商工費（10.6%）…産業振興のための経費
 土木費（5.4%）…住環境整備等のための経費
 衛生費（9.7%）…ごみ処理や健康管理のための経費
 教育費（7.1%）…児童・生徒、社会教育のための経費
 公債費（16.1%）…市の借金返済のための経費
 その他（2.5%）…災害復旧や議会のための経費

【性質別】



人件費（22.2%）…職員給与や議員、委員等の報酬経費
 扶助費（12.3%）…生活困窮者への支援や子育て、高齢者福祉などの経費
 公債費（16.1%）…市の借金返済のための経費
 物件費（7.3%）…事務機器の借上げや施設の管理委託等の経費
 繰出金（10.0%）…国民健康保険や下水道特別会計等に支出する経費
 投資的経費（7.5%）…道路や河川、公園、学校などの施設整備の経費
 補助費等（19.2%）…各種事業に係る補助金や負担金等の経費
 その他（5.4%）…施設の維持補修等に係る経費

○地方債（借金）の状況

平成18年度末の地方債残高は約208億円です。住民一人当たり約61万2千円となります。
 一時借入金については年度内に返済しており、年度末の残高はありません。

（単位：千円）

| 合計 | 会計別 | | |
|------------|------------|-----------|--------|
| | 一般会計 | 下水道会計 | 診療所会計 |
| 20,794,111 | 16,797,843 | 3,985,858 | 10,410 |



○特別会計の決算状況

※特別会計とは、特定の収入（国民健康保険税や下水道使用料など）で事業の支出がまかなわれている会計で、神崎市には現在5会計あります。

国民健康保険事業特別会計

（歳入総額）
3,308,288千円
（歳出総額）
3,246,314千円

国民健康保険診療所特別会計

（歳入総額）
80,945千円
（歳出総額）
74,109千円

老人保健医療特別会計

（歳入総額）
4,022,830千円
（歳出総額）
3,995,017千円

簡易水道特別会計

（歳入総額）
4,173千円
（歳出総額）
3,972千円

下水道事業特別会計

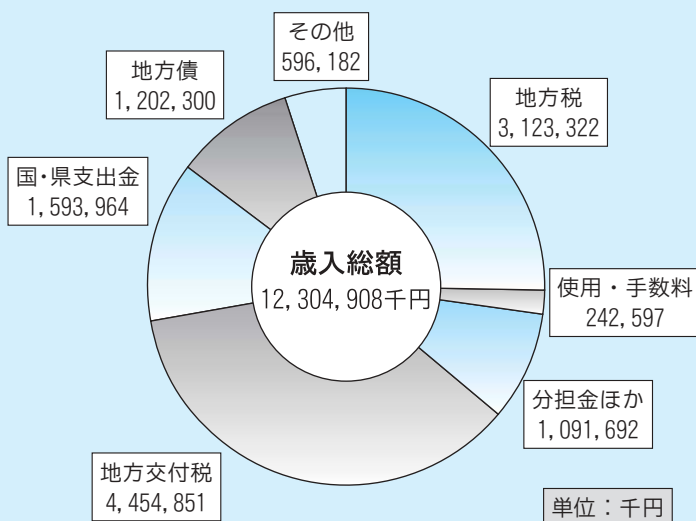
（歳入総額）
774,210千円
（歳出総額）
747,231千円

平成19年度予算の状況

9月補正後の予算の状況をお知らせします

○一般会計歳入予算の状況

前年度と比較してみると… (単位：千円、%)

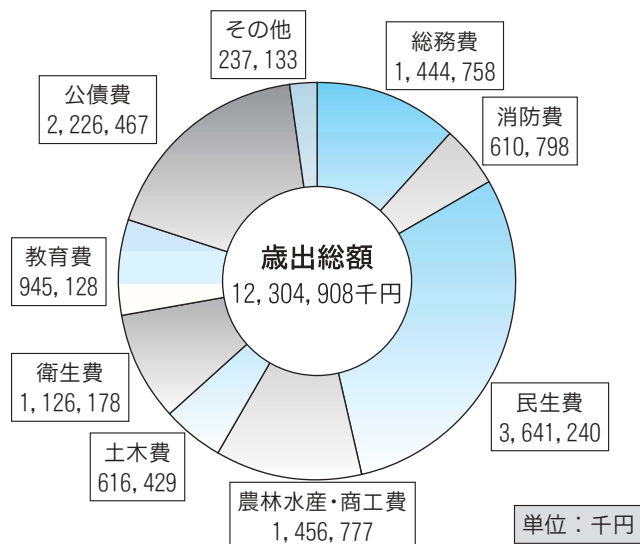


| 項目 | H19予算 | H18決算 | 前年度比 |
|--------|------------|------------|--------|
| 地方税 | 3,123,322 | 2,887,410 | 8.2 |
| 使用・手数料 | 242,597 | 252,142 | ▲ 3.8 |
| 分担金ほか | 1,091,692 | 774,761 | 40.9 |
| 地方交付税 | 4,454,851 | 4,922,562 | ▲ 9.5 |
| 国・県支出金 | 1,593,964 | 1,336,268 | 19.3 |
| 地方債 | 1,202,300 | 693,600 | 73.3 |
| その他 | 596,182 | 914,299 | ▲ 34.8 |
| 合計 | 12,304,908 | 11,781,042 | 4.4 |
| 自主財源 | 4,457,611 | 3,914,313 | 13.9 |
| 自主財源比率 | 36.2 | 33.2 | 9.0 |
| 依存財源 | 7,847,297 | 7,866,729 | ▲ 0.2 |
| 依存財源比率 | 63.8 | 66.8 | ▲ 4.5 |

前年度に比べて「地方税」が増えているのは、主に国の税源移譲によるものです。また、「分担金ほか」が大きく増えたのは、前年度からの繰越金の増、各種事業を実施するための基金を取り崩して繰り入れたことなどによるものです。税源移譲などにより自主財源比率がやや伸びていますが、36.2%と依然として低い状態にあり、自主財源確保への取り組みが急務となっています。

○一般会計歳出予算の状況

前年度と比較してみると… (単位：千円、%)



| 項目 | H19予算 | H18決算 | 前年度比 |
|----------|------------|------------|--------|
| 総務費 | 1,444,758 | 1,915,966 | ▲ 24.6 |
| 消防費 | 610,798 | 588,264 | 3.8 |
| 民生費 | 3,641,240 | 3,095,998 | 17.6 |
| 農林水産・商工費 | 1,456,777 | 1,216,390 | 19.8 |
| 土木費 | 616,429 | 624,894 | ▲ 1.4 |
| 衛生費 | 1,126,178 | 1,120,819 | 0.5 |
| 教育費 | 945,128 | 824,701 | 14.6 |
| 公債費 | 2,226,467 | 1,856,721 | 19.9 |
| その他 | 237,133 | 278,942 | ▲ 15.0 |
| 合計 | 12,304,908 | 11,522,695 | 6.8 |

前年度に比べて「総務費」が大きく減っているのは、前年度に基金への積み立てを5億6千万円行ったことが影響しています。また、「民生費」が増えているのは、千代田保育園建設、「公債費」が増えているのは、高金利な借入分を低金利なものへ借り換えを行うことなどによるものです。全体で見ると前年度と比べて6.8%増の約123億円の予算規模となっています。

○特別会計の予算状況（9月補正後）

【国民健康保険事業特別会計】

- ・19年度現計予算額 3,625,439千円
- ・18年度歳出決算額 3,246,314千円
- ・増減率 11.7%



【国民健康保険診療所特別会計】

- ・19年度現計予算額 89,626千円
- ・18年度歳出決算額 74,109千円
- ・増減率 20.9%



【老人保健医療特別会計】

- ・19年度現計予算額 4,083,760千円
- ・18年度歳出決算額 3,995,107千円
- ・増減率 2.2%



特別会計とは、特定の収入（国民健康保険税や下水道使用料など）で事業の支出がまかなわれている会計で、神崎市には現在5会計あります。

なお、下水道事業特別会計には、公共下水道事業のほかに農業集落排水事業、特定地域生活排水事業が含まれており、長期計画の下、事業が進められています。

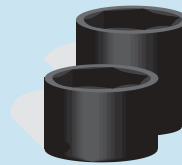
【簡易水道特別会計】

- ・19年度現計予算額 3,121千円
- ・18年度歳出決算額 3,972千円
- ・増減率 ▲21.4%



【下水道事業特別会計】

- ・19年度現計予算額 1,090,249千円
- ・18年度歳出決算額 747,231千円
- ・増減率 45.9%



神崎市の財政は依然厳しい状況にあり、今後ますます厳しくなっていくことが予想されます。皆さんに喜び満足していただけるような市の実現のためには行財政改革が不可欠です。

財政運営にあたっては、収入に見合った支出規模を基本としたうえで、住民サービスの低下を招かないよう職員数の削減や事務事業の細部にわたる見直し統合による経費の削減、また、将来の神崎市を担う子どもたちに過大の負担をかけることのないよう借金の返済に力を注ぐなど、更なる財政の健全化に努めてまいります。

◎問い合わせ先 神崎市役所 財政課 ☎37-0101

※予算書の閲覧は、財政課窓口でどなたでもできます。お気軽にご覧ください。